

『パリの秘密』の社会史

ウージェーヌ・シユールと新聞小説の時代

◎ 小倉孝誠著

ウージェーヌ・シユール（1804〜57）は19世紀フランスの社会派大衆小説の先駆者と呼ばれている。シユールは特に新聞小説の分野で活躍。代表作といえる長編『パリの秘密』は、パリの下層社会を描き、貧困問題、ブルジョア社会の偽善性を告発した作品として連載時から反響を呼んだ。ただし『パリの秘密』は、『モンテリクリスト伯』や『レ・ミゼラブル』と比較される大作であるにもかかわらず、日本ではほとんど知られていないのが現状だ。

本書は、『パリの秘密』の解読を軸に、新聞小説の生成と発展を通した19世紀フランスの小説世界とその背景を描きだす。特にメディア論や社会史的観点をもつて読み直すことで、当時の大衆文学の本質をイデオロギーの表出として明らかにする。注目したいのは、内容紹介に併せて19世紀後半に刊行された当時の挿絵が収録されていることだ。大衆文学における想像力を見る上でも興味深い。（B6判・294頁・3200円・新曜社）